

医学部 離島・地域 医療実習

離島・地域医療実習は、6年生を対象に約1週間にわたって行われる実習で、平成19年度から必修化されました。全ての学生が離島での実習を経験する大学は全国でも少なく、南北600kmといわれる鹿児島県の地理的特性を活かした取り組みと言えます。

受け入れ先は、上甑島、下甑島、種子島、屋久島、奄美大島、沖永良部島、与論島の診療所や病院、始良郡のへき地医療を担当する診療所や鹿児島市の在宅医療クリニック。実習では、離島医療やプライマリケア、在宅医療の現場を「見て、感じて、考える」ことを通じ、離島医療や地域医療の仕組みや医師の役割を学ぶことが目標となります。実習後はさらに勉強することの必要性を

痛感し、学習意欲の増す学生も多いようです。学生は実習先で、問診や血圧測定など医師の手伝いをしながら、離島・へき地医療の現場を間近に見て学びます。また、医用データ管理システム

などを用いた遠隔医療の体験やe-Learningを使った学習もできます。学生からは「離島勤務への思いが一層強くなった」「患者さんとの触れ合いが大切ということの意味を学ぶことができた」などの感想が寄せられ、有意義な実習であることがうかがえます。



下甑手打診療所で学ぶ学生たち

歯学部 離島巡回診療 同行実習

離島巡回診療同行実習は「離島へき地歯科医療人育成学」という科目の中で行われる実習です。5年生の後期から鹿児島県の口腔保健の現状・問題点、離島へき地での歯科診療の特性や、長年離島巡回診療を行ってきた歯学部の足跡などを学び、

6年生になると同行実習が行われます。離島での診療に同行して学ぶという実習は全国でも珍しく、この実習を大学案内で知っ



恵石島での歯科診療を補助する学生たち

て鹿大への進学を決めた学生も少なくありません。

実習先は三島村・十島村の各島、屋久島町口之永良部島を合わせた計11箇所。学生は、これらの島々で行われる巡回診療に各地域2名ずつ同行します。期間は2泊3日程度で、歯学部の教員、研修医、県歯科医師会口腔保健センターの歯科衛生士とともに、診療に参加します。

診療場所の設置では、診療器具の設置準備、診療機器の各パーツやその組み立て方を学びます。診療時は、患義歯調整や治療の介助、ブラッシング指導の補助を学生自らが行います。子どもからお年寄りまで、多くの島民と触れあうことで、離島へき地での歯科診療の重要性を実感できるのです。参加学生からは「離島・へき地での歯科診療の現場を体験できる良い機会」との声が多く上がっています。

工学部 海岸測量実習

海岸測量実習は、日置市吹上浜で海洋土木工学科の3年生を対象として行われます。選択科目でありながら、学科のほとんどの学生が参加し、34年間続いている伝統のある実習です。

砂浜や砂丘といった高低差のある自然の中で測量を行い、土木工学の基礎である測量技術を身に付けることが目標。また、海岸での観測や調査を通して、自然現象に対する理解を深めます。海洋土木工学科の教員・技術専門職員に加え、測量の専門家が指導にあたります。

実習は、夏期休暇中に2泊3日にわたって行われます。学生たちはグループに分かれて地形測量を行い、自らの力で地形図をつくり上げます。その他にも、海浜測量や斜面縦断観測、海浜流や海岸特有の気象現象の観測などを体験。実習終了後は完成さ

せた地形図とレポートを提出し、評価が行われます。

実習の期間中、夜は教員が学生と面談し、履修の指導などを行っています。学生が将来のことを相談したり、4年次から所属する研究室についての詳しい話を聞くことができる貴重な機会。学生と教員が寝食を共にし、共同作業を通じて協調の精神を養うことができます。



吹上浜での
海浜測量の様子

鹿大広報 No.180
SPRING/2009

鹿大ジャーナル

KADAI JOURNAL

<http://www.kagoshima-u.ac.jp/>

特集1

経済界トップ座談会“鹿児島大学の経済効果と使命”

地元経済界が見た鹿大

特集2

鹿大のさまざまな学びの形

講義室を 飛び出せ!

鹿大「知」の探検

ブタ・ヒト間の臨床異種移植実現を目指す
フロンティアサイエンス研究推進センター 山田 和彦教授

鹿大の新たな試み

インテンシブ理数教育特別プログラムがスタート

アラムナイ追跡隊 漫画家 甲斐谷 忍さん

輝く 鹿大生 佐藤 友愛さん(理学部地球環境科学科4年)

鹿大見てある紀 海洋資源環境教育研究センター東町ステーション

鹿大への提言 鹿児島大学同窓会連合会長 江口 正純氏

なんでも情報版「みみずく」

「鹿児島環境学シンポジウム」を開催 ほか

